

原発ゼロでやっていけない

小泉元首相、松江で講演

松江市殿町の県民会館で16日、小泉純一郎元首相が「緑と水の郷・山陰で語る日本の歩むべき道」と題して講演し、原発ゼロと自然エネルギーの活用を訴えた。同講演会実行委員会の主催。

首相在任中は原発推進派だったが、2011年の東京電力福島第1原発事故を契機に勉強し直し考えが変わったという小泉元首相。推進派の主張してきた「安全性」を「いつまた地震、津波がくるかわからない」と否定し、「コストの安さ」とクリーンエネルギーの2点も、廃炉や除染にかかる費用と、放射性廃棄物処理の面から否定。国すべての原発が停止していた13年9月から15年9月までの2年間、一度も停電が起

こらなかつたことが、原発ゼロでやっていけない証明だとし、「またこだわって動かさうとしている。呆れるしかない」と語った。

その上で、全発電量に占める太陽光発電などの自然エネルギーの割合が、福島第1原発事故以前は2%だったのに対し、現在は15%



原発ゼロを訴える小泉元首相= 16日、松江市殿町の県民会館

に達したと指摘。「政府が音頭をとって『自然エネルギーに切り替えよう』と言えば、原発が提供していた30%分のエネルギーなんて10年かからない」と主張した。

同講演会は事前に当日券の発行中止が決まるほど反響が大きく、定員1500人を大きく上回る約2100人が訪れ、立ち見や、館内に設けられたライブ中継会場で講演を聞く人も少なくなかった。

同講演会実行委員会事務局長で島根大学名誉教授の保母武彦さんは「会場も非常に静かで、しかも反応すべきところは反応する、一つの心に通いあったような大講演会だったと感じる」と話していた。

「コストの安さ」とクリーンエネルギーの2点も、廃炉や除染にかかる費用と、放射性廃棄物処理の面から否定。国すべての原発が停止していた13年9月から15年9月までの2年間、一度も停電が起